

2023 年度下期 助成金交付先

2023 年度下期 助成金交付先として、以下の 4 社を選出し、2 月 7 日 (水) に交付式を行いました。

※ 申請受付順に掲載

< 1 >

交 付 先 株式会社 さかなドリーム (本社：館山市)

代 表 者 代表取締役 CEO 細 谷 俊一郎

業 種 水産養殖業 新規養殖魚の開発・販売

業務内容・研究開発内容

【 生殖幹細胞操作技術による世界唯一の養殖魚開発 】

本プロジェクトは、東京海洋大学教授で当社共同創業者の吉崎悟朗氏が開発した生殖幹細胞操作技術である「代理親魚技法」によって、日本の水域に棲息する 4,000 種を超える魚の中から全く新しい高付加価値養殖魚を生み出し、以て日本の養殖業再興と未利用魚・低利用魚の活用による水産資源の持続可能性の向上を目指している。

当社代取である細谷氏らは、フードテックスタートアップ起業を志向し食に関する事業化の検討を行っていたところ、魚類の生殖工学分野における世界的な権威である東京海洋大学教授の吉崎悟朗氏が、農林水産省が事業元である補助金「スタートアップ総合支援プログラム」に採択されたことを契機に知り合い、当社を創業することとなった。

当社は、東京海洋大学より、東京海洋大学が特許取得済の「生殖細胞の生育方法」等については通常実施権を得ており、本事業の根幹となる、現在特許出願中の「魚の雑種製造方法」についても独占的通常実施権を得ている。

代理親魚技法は、世界で唯一、魚類の凍結細胞から次世代集団を生産可能な技術であり、食の本質的な価値である「美味しさ」に特化した育種を行うことができるとしている。また本プロジェクトは、独自の育種を実現できる技術、極めて美味な親魚を用いて開発されるハイブリッド魚、エコシステム全体の収益性を向上させるビジネスモデルの組合せによって、唯一無二かつ模倣困難な付加価値を提供できるという優位性を有している。



< 2 >

交付先 株式会社 AGR I SMILE （本社：東京都千代田区、研究室：柏市）

代表者 代表取締役 中道 貴也

業 種 農業DXプラットフォームの提供、持続可能な農業に資する研究開発 他

業務内容・研究開発内容

【 未利用資源を活用した新規バイオスティミュラントの開発 】

当社は、肥料、農薬、土壌改良剤に次ぐ資材として注目を集めているバイオスティミュラント（BS）の研究開発を行っている。BSは、植物に刺激を与えることで植物本来の機能を引き出し、環境ストレスの緩和や元素吸収量の向上を促す特長を持つ資材である。当社は、現在農業現場で発生する残渣を原料とした残渣型BSを開発している。食品廃棄問題を解決しながら、農業生産量の拡大や化学肥料の使用量低減に寄与する残渣型BSを普及させることにより、脱炭素社会の実現と、環境保全型農業の実現の両立を目指している。

当社は既に日本一のタマネギ生産量を誇る北海道や、長ネギ生産で有名な埼玉県で、JAや自治体と連携し、現場実装を目的とした残渣型BSの圃場試験を実施している。今後は、千葉県の栽培品目を用いた残渣型BSの開発と普及にも取り組んでいく。

当社は、「テクノロジーによって、産地とともに農業の未来をつくる」を経営理念に据え、豊かな経験を持つ産地と、進化を続けるサイエンステクノロジーを融合することで、環境に優しい魅力あふれる農業の実現に取り組んでいる。

国内最大規模の産地ネットワークを活かし、データサイエンス技術による農業DXソリューション、最先端バイオテクノロジーによる生産技術、産地のブランディング支援などを展開している。また、技術創出の源泉であるアカデミアの交流を活発化するプラットフォームを提供し、社内外で技術を連携させている。今後も、産地と調和した革新的なサービスを通じて、笑顔（SMILE）のある未来を創造し続けていくとしている。



< 3 >

交付先 アトピヨ 合同会社（本社：市川市）

代表者 代表社員 赤穂 亮太郎

業種 情報通信サービス業

業務内容・研究開発内容

【日本初アトピー症状を匿名で記録・みんなで共有できる画像 SNS「アトピヨ」】

本プロジェクトは、アトピー性皮膚炎に悩んでいる人々の早期回復のサポートになることを目指し、文字だけでなく「画像」を投稿することで、アトピー特有の症状・かゆみ・スキンケアを匿名で記録・共有できる千葉発・日本初のアプリを展開するものである。当社は、代表自身もアレルギー疾患の経験があることから、日本に125万人いるといわれ、増加傾向にあるアトピー性皮膚炎患者の①症状管理が難しい、②精神負担が重いという2つの課題を解決すべく設立された。そして、製薬会社・医療機関等と連携して、アトピー性皮膚炎分野における調査・研究・製品開発・疾患啓発を支援し、患者に還元していくことをビジョンとしている。

現在、京都府立医科大学等6大学病院・施設の皮膚科医・アレルギー専門医等と共同でビッグデータ解析などの研究や、製薬会社と連携した調査・疾患啓発を進めており、アプリは、25,000ダウンロード、57,000枚のアトピー投稿画像がある、日本最大級のアトピー患者向けアプリ・コミュニティ・ビッグデータとなっている。

当社は、設立以来、その課題解決性・革新性・将来性が評価され、厚生労働省「健康寿命を延ばそう！アワード」や経済産業省「ジャパン・ヘルスケアビジネスコンテスト」などの賞を受賞しているほか、NHK・読売等メディアでも紹介されている。また2022年には、AMED（国立研究開発法人日本医療研究開発機構）の「免疫アレルギー疾患実用化研究事業」に採択され、2023年9月には、アプリ内疾患啓発サイトが運用開始し、10月に共同研究内容で日本アレルギー学会学術大会賞も受賞している。



< 4 >

交 付 先 株式会社 ワークロボティクス （本社：習志野市）
代 表 者 代表取締役 保 坂 謙史郎
業 種 ロボット及びロボット周辺機器に関する企画、研究開発、製造、販売
業務内容・研究開発内容

【 狭隘空間点検ロボットの信頼性向上 】

本プロジェクトは、千葉工業大学から技術移転を受け、当社で開発・販売を行う狭隘空間点検ロボットの信頼性向上を目標とするものである。

当社は、大学との情報共有を密に行い、技術移転された技術を適切に社会実装し、社会課題の解決につなげていくべく、千葉工業大学内ベンチャーとして立ち上げられた。

既に天井裏点検や高速道路の裏面吸音板点検、歩道橋点検等、従来方法では不可視エリアで点検が困難とされていた場所での点検を可能とし、一部解体や専用足場構築も不要なことから、点検コストも大幅に削減できることが確認されている。

今回は、走行中のずれや脱輪、破断を防ぐことができるクローラベルトの改良で、走行性・信頼性の更なる向上を目指している。クローラ型点検ロボットは他社にもあるが、6クローラ構造により小型でありながら高い走破性能を有する6クローラ型ロボットやカメラリフトアップ機構については、技術移転元である千葉工業大学が特許を所持している。また、大容量バッテリーや高性能な無線機器の搭載も可能であることから、同サイズのロボットやドローンと比較して、優れた走破性能と点検機能を有しているロボットと考えている。

インフラメンテナンスを行う会社や構造物を所有する会社と協力することで、実用箇所の拡大、普及が見込まれるほか、今後は、国土交通省の点検支援技術カタログ等への掲載も検討しており、全国の自治体が管理する歩道橋等の狭隘部点検への活用など、対象市場規模の大幅な拡大も期待される。

